

# 「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

2007年 6月25日  
「保険でより良い歯科医療  
を」愛知連絡会 NO.1

## 「保険でより良い歯科医療 を」愛知連絡会を設立

6月10日(日)午後1時から、名古屋伏見の愛知県保険医協会伏見会議室で「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会設立総会が開催されました。当日は歯科医療関係者や患者など51人が参加しました。



挨拶する大藪憲治会長

1992年にNHKが放映した「噛めない、話せない、笑えない入れ歯の話」はその原因が低い保険点数だと指摘し、その解決のために入れ歯の保険点数を2倍に引き上げてはとの提言がされ大きな反響を呼びました。これ

が「保険で良い入れ歯を」の運動につながり、全国の半数以上の自治体が意見書をあげるなど大きな国民運動となって入れ歯の診療報酬改善がはかられました。

現在、政府の医療費削減政策により、患者の一部負担金は次々に増額されています。また歯科では新しい技術が保険にほとんど導入されておらず、一般的に行われている治療内容でも自費になるものがたくさんあります。このため低所得者層は歯科医療機関にかかれない状況がうまれています。一方歯科医療機関側では診療報酬が低く抑えられ、経営的にも厳しい状況にあり、そのしわ寄せが歯科衛生士さんや歯科技工士さんに影響して、転職する人があとをたちません。このままでは日本の歯科医療は崩壊し日本人の口腔の健康ひいては体全体の健康に大きな悪影響を及ぼします。この状況を打開

するためには「保険で良い入れ歯を」のような、患者国民の切実な要求として歯科医療改善の声を大きくして問題点を改善していくしかありません。

愛知県保険医協会歯科部会と民主医療機関連合会歯科委員会が合同で県民各層の団体に申し入れを行い、「全日本年金者組合愛知県本部」、「新日本婦人の会愛知県本部」、「愛知県商工団体連合会」、「NPOアレルギーネットワーク」の6団体が参加し「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会を発足させました。

総会は「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会準備会責任者の大藪憲治氏のあいさつで始まり以下のようにのべられました。「歯科医療をとりまく状況は大変厳しく、今のままでは歯科医療機関はつぶされてしまいます。だが歯科医療従事者の運動だけでは、関係者だけの利益誘導としてとらえられ、どれだけやっても変わらないのが現実であります。しかし歯科医療軽視は国民の口腔状態に直接跳ね返り、国民の健康被害につながります。歯科医療改善を患



報告する宇佐美宏全国連絡  
会副会長

者・国民の運動として進めなければ展望はありません。歯科医療改悪の状況は厳しく早い、ゆっくりしてはとりかえしがつかなくなるといことで今回の立ち上げ

となりました。ご協力をよろしくお願い致します。続いて全国連絡会副会長(保団連歯科代表)の宇佐美宏氏が「保険で良い歯科医療」を求める運動の役割について講演しました。宇佐美氏は冒頭「リハビリの運動などは患者組織がうごいて大きな国民的運動になっていますが、歯科の運動には患者組織がありません。」「保険

で良い歯科医療を」の運動も全国には東京と千葉しかなく愛知で3番目できたということで正直ほっとしています。患者さんが困る状況はすぐそこまでできています。お金の有る人から治療費をとれば良いというものではありません。患者アンケートから保険のきかない治療をずいぶんすすめられるときいています。保険の点数があがれば十分な治療ができます。乳幼児医療費無料の運動も国民と共に取り組み広がってきました。歯科でも同じような取り組みとしていきたい」と発言され、歯科医療をとりまく状況について具体的な資料を示しながら講演されました。

続いて参加者のなかから下記のようにそれぞれの立場で歯科医療に対する意見や希望が述べられました。



○歯科技工士：技工士学校の同級生にあうと7割が技工士をやめていた。大変厳しい状況である。

○北医療生協組合員：前にかかっていた歯医者さんは治療だけのところがほとんどであった。北生協で歯磨のことを学んで大変役に立ったが、指導はやればやるほどお金にならない。これが点数にならないのは矛盾を感じる。子供の治療も大変手間がかかるがその報酬もどれだけあるのか、これらを要求していく必要がある。

○新日本婦人の会：新婦人愛知県本部は1万数千人の会員があり憲法を守る活動などなどに取り組んでいるが医療の関心も高い。すむ場所で医療費が違うのはおかしいということで乳幼児医療費の国会要請行動も行っている。若いお母さんたちは子供の病気の事や歯磨きなども悩んでいる。気軽に教えてくれ場を期待したい。

○年金者組合：年金者組合は愛知県で5400人の組合委員があり、56の支部がある。もっとシンポジウムや討論会などを開いて国民と広く話し合う場を持って欲しいと思う。歯医者さんの治療費が高いので治療を中止という人もいる。国民の理解を得ることが必要。治して終わりという歯医者さんもある、もっと説明もほしい。

○南医療生協組合員：歯が痛くないと歯医者にかからないということで、見過ごしてしまい入れ歯になってしまったこともあるので、口腔ケアの状況をよく見て欲しい。

○北医療生協組合員：患者は歯科医療のことをわかっていない。今日聞いたこともこの場にきて初めてわかることで日頃はよく知らされていない。患者としては歯科にかかりたくないの日常の予防を一生懸命やっている。組合員の方に歯医者は痛くなってからいくところではないということを言っている。歯科がそうした分野で成り立つようになってほしい。もっと知る機会を与えて欲しいと思う。

続いて、大藪憲治氏が保団連発行の「より良く食べるはより良く生きる」の冊子を利用して口から食べることが体の健康にどれだけ大切かを講演された。

「医療にまわすお金を増やし、保険でよい歯科医療の実現を求める請願署名の5万筆を目標に！」

最後に江原雅博準備会委員（民医連歯科委員長）から連絡会申し合わせ事項、活動方針、世話人名簿の提案がされ承認されました。また今後の取り組みとして県民各層に口腔の健康の大切さを啓蒙する運動を積極的に推進すると同時に、保団連が取り組む歯科国民署名を5万筆目標に取り組むことが提案され満場の拍手で確認されました。

この機会に是非ご入会下さい。

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会

〒466-8655

名古屋市中区妙見町19-2

愛知保険医会館内

TEL 052-832-1349